



介護保険料を引き下げよ

介護保険料は制度開始時の基本月額 2,579 円から現在は 5,349 円と 2 倍以上に。この先も、際限なく高くなりかねません。

一方、介護制度がつぎつぎに改悪され、利用の抑制や自己負担増で高齢者が苦しめられています。そのせいで予算が余り

市議 かけのまち子

市の介護基金は約 8 億円にも達しています（右グラフ）。本来、高齢者に返還すべき余剰の（取りすぎた）介護保険料を返さず、基金にため込んでいるからです。

このような財政運営は、「3 年ごとにリセットする」中期財政運営を定めた介護保険法に反します。基金を全額崩して、介護保険料を引き下げるべきと主張しました。

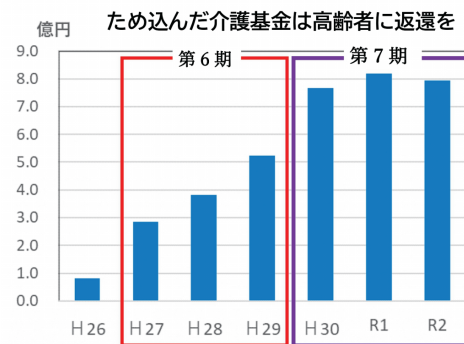
公共交通政策の転換を

法が改正され「地域自ら、地域の公共交通をデザインする」マスタープランというべき地域公共交通計画の策定が、すべての自治体の努力義務となりました。

これを受け、移動ニーズの変化に対応したきめ細かな計画を作成し、市の公共交通政策を転換するよう求めました。

「現時点ではただちに公共交通政策を転換する状況ではないが、公共交通の評価が著しく悪化した場合や、議会の総意により公共交通の再編を求められた場合な

市当局は今の運用に法的根拠があるかどうか明確にせず、「市が決めること」と勝手な解釈。基金の全額を、ただちに取り崩すのは困難だが、次の計画時には全額取り崩しも含め協議すると答弁しました。



どは、地域公共交通計画の作成を検討する」「高齢者生きがい課とも連携し、移動困難者を調査し分析する」と答弁がありました。

市内の公共交通の再編、方針の転換につなげる方向であることがわかりました。

一般質問



市議 みわ 陽子

2 学期から一人一台のタブレットを使った授業が本格的に始まりました。トラブルに対応したり、学びを深めたりするためには、ICT 支援員が必要です。文科省も 4 校に 1 人の支援員配置の予算措置を

しているとの資料を提示して配置を求めました。「システムの保守点検業者がトラブル発生時は駆け付け、月 1 回程度学校を巡回しており、その回数を増やすことを検討している。また市の指導主事が授業

学びを深めるタブレット学習を

での活用方法などを指導しているの で、ICT 指導員を配置する考えはない」との残念な答弁でした。



福祉タクシーを使いやすく

市では、障がい者の一部と 85 歳以上の高齢者に基本料金（600 円）の券を 48 枚、希望者に配っています。しかし使用率は 20% 台と大変低くなっています。

利用者からは、「基本料金だけの補助では、不足分の支払いが心配で利用しづらい」との声が多く聞かれます。

「基本料金の 600 円 48 枚分を 500 円券 40 枚と 200 円券 44 枚にし、1 回の乗車に枚数

制限なしで使えるようにしては」と提案しました。

なぜ使用率が低いのか、市として検証していないことがわかりました。

「使われない理由をはっきりさせるなどの実態調査を、次のタクシー券配布時に行い、調査結果を踏まえ今後必要な検討する」との答弁がありました。

布袋駅東複合公共施設 1 億円も契約額アップ

建設が進む、布袋駅東複合公共施設。建設物価が上昇したため、契約に基づき、事業者への支払額が約 1 億円も増えて 44 億 8 千万円に膨れ上がることがわかりました。

PPP/PFI 的手法で安くなるととのふれ込みでしたが、さらに高額になりました。



すいとぴあ江南、当面は存続

すいとぴあ江南の建物は、「市の公共施設の中でも特に維持コストが高額。宿泊施設、勤労施設等に公共が関与する必要が低下している」と、市の公共施設再配置計画では「民間譲渡または廃止」が打ち出されていました。

このほど市長から「当面の間、存続する。計画の検討は継続する」という方針が示され、議会ではほぼ了承されました。



日光川最上流域に待望の遊水地

日光川最上流域の浸水被害軽減のため、県事業で江南市内（後飛保町神明野）に遊水地を整備することが正式に決まりました。

これまで下流側の整備が優先で、最上流域にあたる江南市内の浸水対策は後回しでした。長年にわたる粘り強い地域住民や市議会、市をあげての県への要請行動がようやく実を結びまし

た。被害軽減が大いに期待されます。日本共産党議員団も対策を求め続けてきました。

